
人体屋敷

白祈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人体屋敷

【Nコード】

N4872Z

【作者名】

白祈

【あらすじ】

数十年前、その別荘では様々な人体実験が行われていた。非道としか言いようのないことをされた人々は、絶叫し、生々しい血に塗れ、別荘の周辺に住む人々を戦慄させていた。

だが、ある日を境にその声は聞こえなくなった。

多くの謎を残したまま、その別荘はとある人を買われる。

そこへ泊りに来た四人の男女の結末とは…

暗い廊下は電気がつかない。（前書き）

山の奥深くの屋敷に泊りに行った四人それぞれの哀しく、別々の結末をどうぞ。

キャラの性別ですが、AとCは男、BとDは女です。

グロいかもしれませんが、・・・。（。- -。）

暗い廊下は電気がつかない。

その日は、AとBとCとDで、楽しみにしていた日だった。しかし、長い間放置されていた別荘は、とても不気味な雰囲気を持っていた。

古びた扉は、ギイイイイという音をたてて開いた。中は真っ暗で、電気のスイッチなど見つかる気がしない。仕方が無いので、懐中電灯を付け、Cは電気のスイッチを探し、押したが、明かりがつくことは無かった。

「おかしいな、前に来た時は、ついたんだが」

「あはは、C君が前に来た時って、子供の頃でしょ？それ以来来てないなら、つかないのも当然じゃない」

Cの独り言にBが答えた。

一步、また一步と歩を進める度に、床が軋み、頼りない音をたてる。外は雨が降っており、屋敷の中は少し肌寒かった。

「お、やったじゃんか、リビングは電気ついてるぜ？」

「本当だ！良かった、真っ暗じゃちょっと嫌だったからなー」

Dがくすくすと笑い始める。Aも笑う。その笑いが広がり、やや緊張気味だった雰囲気は和んできた。

不意に、Cが思い出したように喋り始めた。

「君たち、この屋敷の噂話を知っているかい」

Bはきよとした顔で、次いで身を乗り出し、興味津々のいった様子で話しの続きを待った。

「ね、ねえ……。私、怖いよ。Bちゃんは怖い話し平気かもしれないけど、私は駄目なの」

「もう、Dさんは怖がりねえ！大丈夫よ、まだ怖い話しかもわかんないし」

「Dには悪いけど、俺も話し気になるな」

「でしょー!？」

「じゃあ続けるとしようか。昔、僕らが生まれるずっと前。ここでとある人体実験が行われていた。生身の人間の目玉をくり抜き、生きたまま牢獄へ閉じ込め、少しずつ毒虫を入れていったりした。それはもう、地獄としか言いようがないものだったそう。血まみれで、絶叫する大量の人々……。しかし、ある日突然、その声が途絶えた。近所の人々は皆、てっきり実験体が全員死んだのかと思い、次の実験体は誰になるかと、日々震えた。だが、もう実験が始まることはなかった」

「な、なんで？」

「それは……………」

Cはもったいぶって、沈黙した。そして再び口を開きかけた瞬間、軽快だがどこか外れた調子のメロディーが流れた。それは、Aの携帯の着信音だった。

「おっと、俺のメール……………っ!？」

「どうしたの、A君」

「こ、このメール、見てくれよ」

【許さない、捕まえてやる。

今更逃げられるとは思っなよ。

まずはお前からだ、復讐してやる。

安心しろ、

俺たちみたいな死に方はさせない。

もっともっともっと、痛ぶって、

酷いことにしてやるよ】

『……………!!!!』

四人は戦慄した。しかし、一番はやく立ち直ったのは、意外にもDだった。

「…………逃げなきゃ!まだA君しか狙われてない、まだ私は助かる!

だから、だから言っただのに！あなたたちが勝手に！」

「待てよ、おい、D！一人は危険だ！」

しかしDには誰の声も届かなかった。そのままりビングから懐中電灯も持たずに出て行ってしまった。

「おい、B。連れ戻してこいよ」

「い、嫌よ！C、あんたが行って！」

「仕方が無いな……」

無言でCがドアノブに手をかけ、部屋から出ようとした。が、開かない。

「なんでだよ！？」

Aは焦り、Cを突き飛ばし扉を叩く。しかし、開かない。

「おいおい、A？あまり騒ぐと、メールの送り主にバレるかもしれないぞ？」

Cはにやにやと笑いを浮かべる。そして、もう一つの扉があるから、遠回りになってしまいがそこに行く、と告げた。

そこは暗かった。リビング以外のほとんどの電気がつかないようだ。Cは幼少期に一度ここへ来たが、玄関に上がったただけですぐに帰ってしまったため、構造がどうなっているかはあまり知らない。しかし、無知、という訳では無かった。

まずはここから裏口へと出なければならぬが、その間に通る部屋が確か、たくさんあったはずだ。

長い廊下を歩き抜け、ふっと寒気がして振り返る。だが当然、誰もいるはずがない。

随分重い扉を開け、物置状態の部屋へ入る。懐中電灯で辺りを照らしてみる。

「……………！？」

そこには……………

暗い廊下は電気がつかない。(後書き)

読みたいとコメントをしてくれる方がいるなら続きを書こうかな……

申し訳ありません、中途半端な文章で終わってしまって……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4872z/>

人体屋敷

2011年12月16日16時47分発行